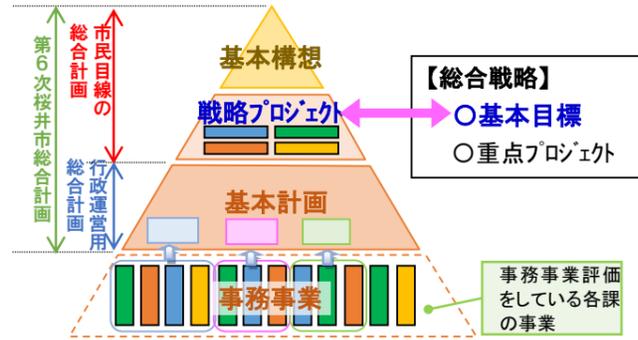


(1) 第 6 次桜井市総合計画の構成案

a) 次期総合計画の構成

- 総合計画の構成は、まちの将来の方向性を示す「基本構想」、今後 5 年で重点的に取り組む「戦略プロジェクト」、分野別に事務事業を関連づけた方向性を定める「基本計画」の 3 層構造とする。
- 「戦略プロジェクト」は桜井市が今後の 5 年で特に戦略的に実施すべき取組（総合戦略の基本目標）を位置づける。



< 次期総合計画の構成イメージ（総合戦略との整合性） >

b) 次期総合計画の目次構成(案)

総合計画の目次構成(案)

	第 5 次総合計画（現行）	第 6 次総合計画（次期）
はじめに	1. 第 5 次総合計画について (1) 計画策定の趣旨 (2) 計画の位置づけ (3) 計画の構成 (4) 計画の期間 2. 桜井市を取り巻く社会動向 ・各分野の社会動向を記載 3. 桜井市の概要 ・歴史、人口、市民意向について記	1. 第 6 次総合計画について (1) 計画策定の趣旨 (2) 計画の位置づけ (3) 計画の構成 (4) 計画の期間 2. 桜井市を取り巻く社会動向 ・今後 10 年間で特に踏まえるべき項目を記載（地方創生、スーパーメガリージョン、第 4 次産業革命、働き方改革など） 3. 桜井市の概要 ・課題抽出のための概要の記載 4. 桜井市のまちづくりの課題
基本構想	1. 将来都市像 (1) 都市像 (2) 人口フレーム ・平成 32（2020）年の将来人口のみ記載 (3) 将来都市構造 2. 分野の展望 3. 行政経営の方針	1. 将来都市像 (1) 都市像 (2) 人口フレーム ・桜井市人口ビジョンに基づき、長期的な人口推計及び年齢 3 区分人口の記載 (3) 将来都市構造 ・立地適正化計画の考え方や広域的な視点を反映 2. 分野の展望 ・課題を踏まえ、柱を再整理 3. 行政経営の方針 ・行財政改革アクションプランの内容を整理
戦略プロジェクト	将来像を具現化するために特に戦略的に取り組むものが戦略プロジェクト	1. 戦略プロジェクトの構成、見かた 2. 戦略プロジェクト ・次期総合戦略と整合
基本計画	1. 基本計画の構成、見かた 2. 基本計画 第 1 章 地域経営 第 2 章 産業 第 3 章 健康・福祉 第 4 章 教育・生涯学習・交流 第 5 章 環境 第 6 章 生活・都市	1. 基本計画の構成、見かた 2. 基本計画 ・社会動向を踏まえ体系を変更 ・現行計画の記載項目を踏襲しつつ、記載内容を簡素化

※赤字部分は今回の改定の中で見直しを行う箇所

c) 将来都市像と戦略プロジェクト・分野の展望の関係性

将来都市像は、桜井市の 10 年後を見据えた目指すべき姿として位置づけ、これを実現するために、戦略的に取り組む「戦略プロジェクト」と分野別の取組みの方向性として「分野の展望」を位置づける。

■ 将来都市像 「観光・産業創造都市 ～人と人のつながりから、新たな歴史がはじまるまち～」
※イメージとして現行計画における内容を示す。見直しを行う。

■ 戦略プロジェクトの方向性
①若者の働く場を確保する（農林業・観光振興、まちづくり会社によるプラットフォームづくり等）
②市外からの来訪を促し、定住を促進する（関係人口を増やすための広域連携、インバウンド推進等）
③子育て世代に選ばれるまちをつくる（定住人口増加のための子育て支援施策、学力向上等）
④桜井ならではの生活スタイルを確立する（自助・共助による自立した生活を実現するコンパクトなまちづくり等）

■ 分野の展望・基本計画の柱立て
①観光・産業分野
②健康・福祉分野
③教育・生涯学習・交流分野
④環境分野
⑤都市分野
⑥安全・安心分野
※詳細は d) にて提示

d) 分野の展望・基本計画の柱立て、及び施策項目

市民アンケート調査、有識者会議、高校生まちづくり会議等を踏まえ、「将来像を実現する上で踏まえるべき視点」から柱立て案を以下のように整理する。

基本計画の分野ごとの施策については基本現行の総合計画の分野別のまとめ方を活かし、社会潮流等を踏まえて整理・追記する。

※新たに追加すべき事項（赤字）、移動すべき事項（青文字）

現行計画における柱立て	次期総合計画における柱立て案（分野の展望案）	施策項目
①地域経営分野 ～協働のまちづくり～	■ 持続可能な行政運営 ※下記 6 本の柱を支えるものとして整理	①協働の地域づくりの推進、②市民活動の支援強化、③情報共有の充実、④広域行政の推進、⑤行政経営の適正化、⑥効率的な行財政運営の推進
②観光・産業分野 ～にぎわいと活力のあるまちづくり～	①観光・産業分野 ～桜井の個性を活かした活力あるまち～	①観光の振興、②農林業の振興（保全の事項は 4. 環境共生へ）、③工業の振興、④商業の振興、⑤雇用・労務対策の充実、⑥新たな産業の創出
③健康・福祉分野 ～心身ともに健やかなまちづくり～	②健康・福祉分野 ～健康長寿のまち～	①健康づくりの充実、②地域福祉の充実、③障がい者福祉の充実、④高齢者福祉の充実、⑤子育て支援の充実、⑥乳児・幼児教育・保育の充実、⑦医療の充実、⑧市民の生活支援の充実
④教育・生涯学習・交流分野 ～互いに学びあい高めあうまちづくり～	③教育・生涯学習・交流分野 ～様々な人々が共存するまち～	①学校教育の充実、②生涯学習の推進、③生涯スポーツの推進、④地域教育の充実、⑤歴史文化の保全と活用、⑥人権文化の確立、⑦多文化共生の推進、⑧男女共同参画の推進
⑤環境分野 ～地域の文化に根ざした環境共生のまちづくり～	④環境分野 ～環境共生のまち～	①生物多様性の維持・保全、②循環型社会の創出、③環境教育・活動の推進
⑥生活・都市分野 ～一人一人の暮らしが活きるまちづくり～	⑤都市分野 ～心豊かに暮らせるまち～	①土地利用の最適化、②交通基盤整備の促進、③市内の移動の円滑化、④住環境・空き家対策の推進、⑤景観の保全と活用、⑥都市環境の向上、⑦上水道の安定経営、⑧生活排水の適正な処理
	⑥安全・安心分野 ～安全・安心に暮らせるまち～	①災害対策の充実、②防災体制の充実、③交通安全対策の推進、④防犯体制の充実、⑤消防・救急の充実、⑥バリアフリー化の推進

e) 行政運営用の総合計画(基本計画)のイメージ

現総合計画での記載内容は、現状、主要な課題、市民生活の目標像、まちづくり指標、施策の取組方針、市民に期待する役割で構成されている。

【方針】
 ⇒基本計画は柔軟に見直しができる計画書とするため、以下のような簡潔な表現（1施策 A4 1枚程度のボリューム感）でとりまとめる
 ⇒まちづくり指標、施策の取組方針、市民に期待する役割については基本計画では記載せず、戦略プロジェクトで指標、市民に期待する役割について記載

【記載内容】

■ 節タイトル

- 担当部課を追記
- 戦略プロジェクトで位置づけのある場合マーク等で表記

■ 現状

- 箇条書きで分かりやすく（A4 1/3程度まで）

■ 主要な課題

- 箇条書きで分かりやすく（A4 1/3程度まで）

■ 市民生活の目標像（めざすまちの姿）

- 箇条書きで分かりやすく（2～3項目程度まで）

■ 関連計画

- 関連する計画があれば記載する

<レイアウトイメージ>

節タイトル ✿

担当部課

■ 現状 戦略プロジェクトマーク

- 箇条書き
-
-

■ 主要な課題

- 箇条書き
-
-

■ 市民生活の目標像（めざすまちの姿）

- 箇条書き
-

■ 関連計画

計画名

f) 市民目線の総合計画(基本構想・戦略プロジェクト)のイメージ

文字や文章の「読みやすさ」は、可読性、視認性、判読性という3つの要素から成り、

「可読性」：文章の読みやすさ

「視認性」：見た瞬間の認識のしやすさ

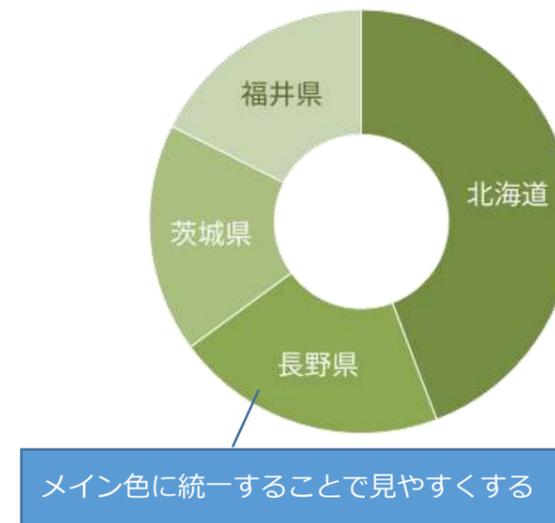
「判読性」：誤読がないか

という指標であり、書体の種類や文字サイズ、行間や字間を調節したりすることで高めることができる。

受け手の理解を促進するために、文字や文章を「読みやすく」するだけでなく、図表や資料全体を「見やすく」し、文字量を少なくする。

特に市民向けに作成する基本構想及び戦略プロジェクトについては、見た瞬間に状況や内容を把握できるように、個々の図や表を見やすくするだけでなく、情報を整理して資料をレイアウトし、彩度の高すぎる色は避ける。テーマ色として桜井市をイメージする緑系又は槐（えんじ）系を使用することで桜井市市民が親しみやすいものとする。

桜井市らしい配色のイメージ例



	背景色	メイン色	強調色	文字基本色
使用箇所	表や図などの背景に用いる	全体を通じたイメージカラー タイトル等に用いる	重要度の高い単語や文章に用いる	重要度の低い単語・文章に用いる
配色例				

(2) 将来都市構造・将来都市像の検討状況

a) 将来都市構造

【見直し方針】

- ・平成 30 年度の立地適正化計画の策定を踏まえ、都市生活交流ゾーンをまちなか居住促進区域、地域居住促進区域、一般居住区域に細分化。また、拠点についても、中心拠点、地域拠点、観光拠点、サブ拠点に見直し。
- ・立地適正化計画への位置づけはないが、地域主体の活動が展開されている地区を小さな拠点として設定。
- ・農業振興、林業再生の観点から、自然・歴史・文化ゾーン、農業交流ゾーン、森林再生ゾーンを農業促進ゾーン、自然交流・森林再生ゾーンに見直し。
- ・観光・産業、都市機能に関する周辺自治体との広域連携の観点から、広域連携軸を設定。

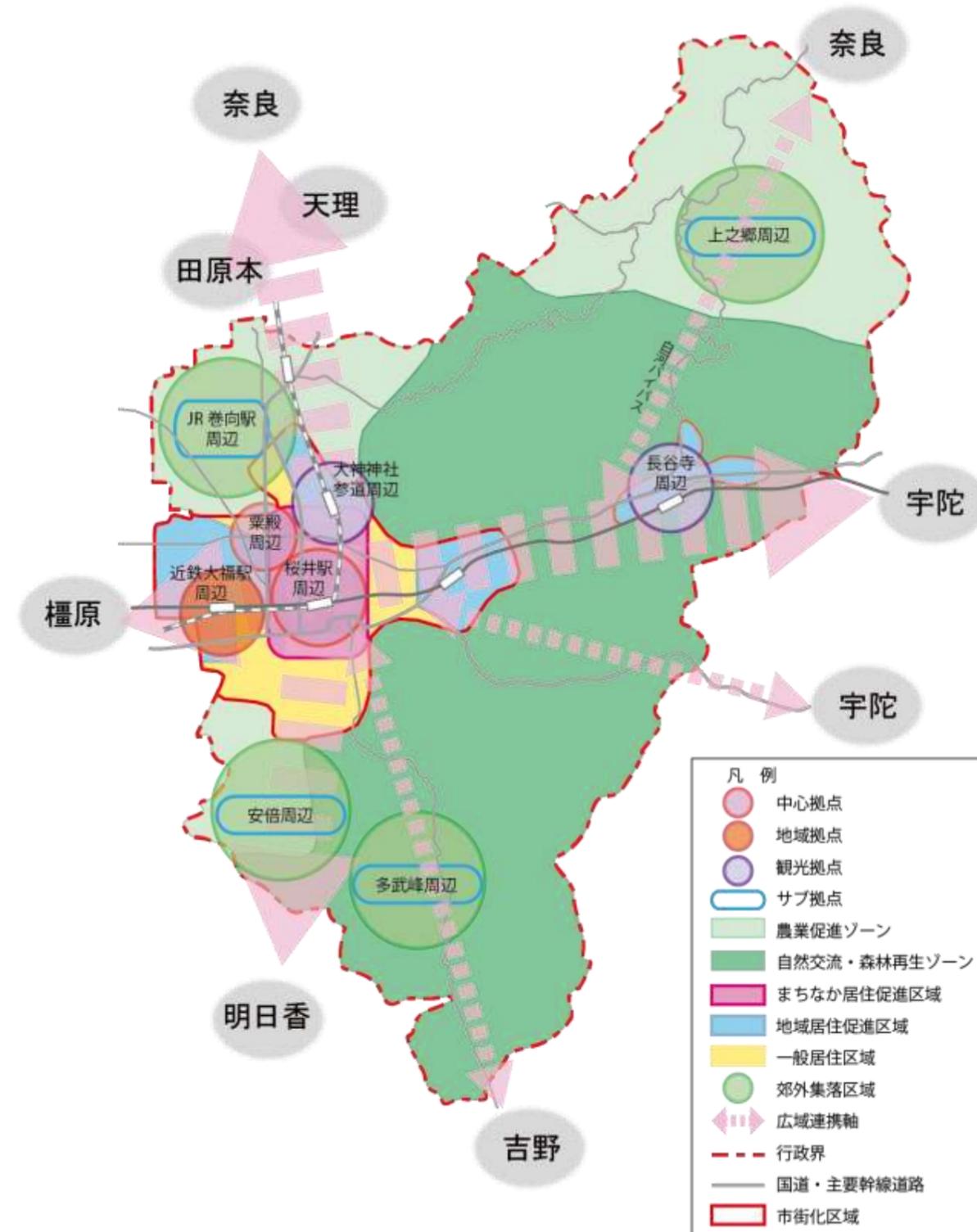
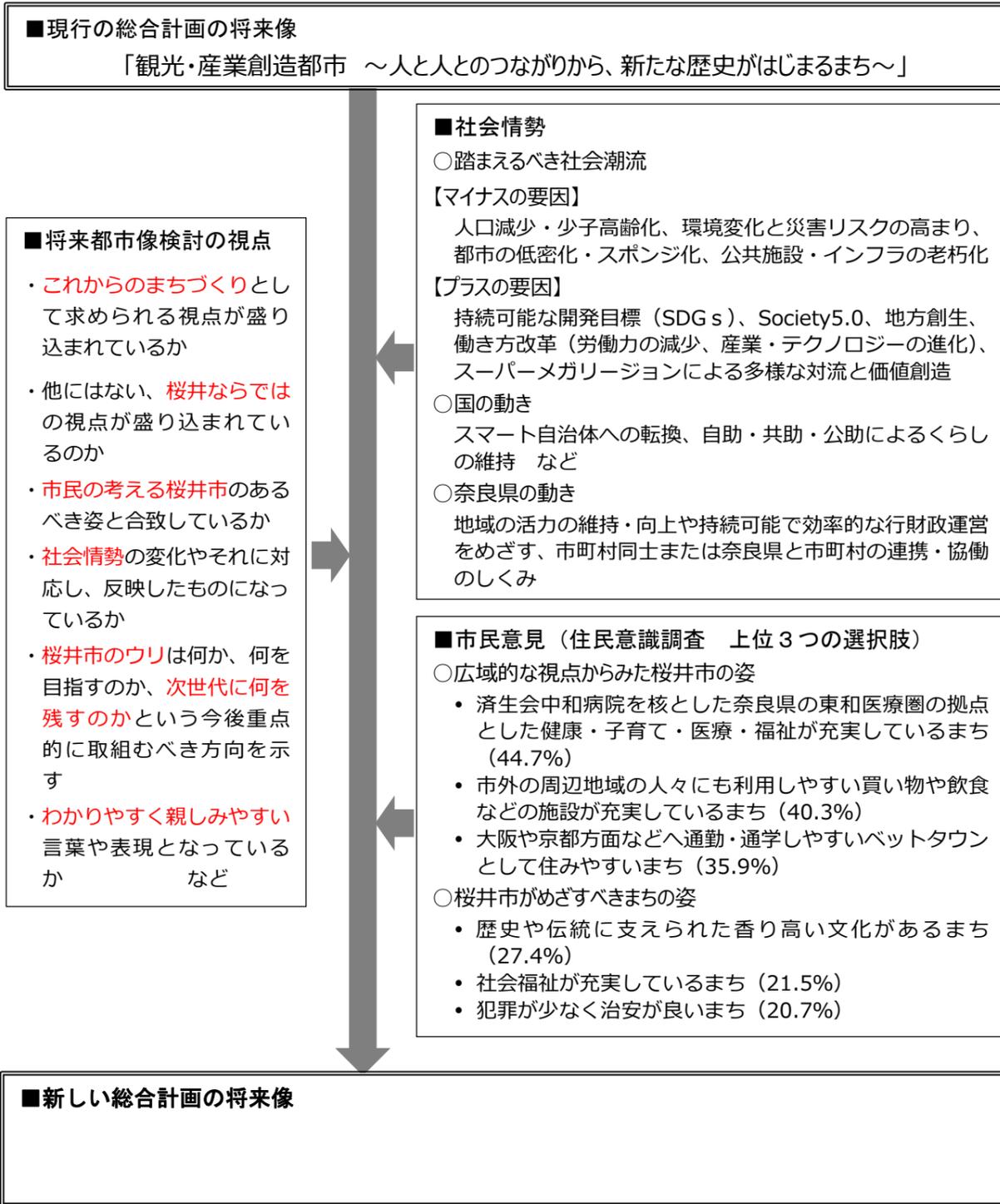


図 将来都市像

ゾーン・拠点・軸		展望
拠点の展望	中心拠点	近鉄・JR桜井駅周辺、栗殿周辺 ● 本市全体の中心となる拠点として、地域公共交通の利便性を生かしつつ、既存施設との相乗効果の発現を生み出す複合的な都市機能（商業、医療、福祉、文化、行政施設等）の誘導を進めることで、便利で魅力的な拠点形成を進める。
	地域拠点	近鉄大福駅周辺 ● 「中心拠点」との役割分担と連携を図りつつ、県営・市営住宅の有効活用を図ることで、多世代が集う地域の交流拠点の形成を進める。
	観光拠点	長谷寺周辺・大神神社参道周辺 ● 新たな定住人口の増加に向け、本市の魅力を発信する場と位置づけ、地域資源の更なる有効活用に向けた取組みを促進し、本市の主要な観光地としての充実化を図る。
	サブ拠点	JR巻向駅周辺、上之郷周辺、安倍周辺、多武峰周辺 ● 自然・歴史資産等の地域特性を生かしつつ、各地域の集会所等を交流拠点とし、既存の地域コミュニティ機能の維持・強化を進める。
	小さな拠点	小夫・笠周辺 ● 生活利便性や地域コミュニティの維持・確保のため、地域住民が主体となった取組みへの支援や生活サービスの維持・確保を進める。
ゾーンの展望	農業促進ゾーン	● 自然特性を活かして支えられてきた地域の農業を基盤に、市内の他の産業との連携により新たな価値の創造を図る。 ● 農業としての発展とともに、「農のある暮らし」という生活の価値を発信し、新たな主体の就農を促す。
	自然交流・森林再生ゾーン	● 貴重な歴史資源とその存在により守られてきた豊かな自然環境の保全により、環境問題への対応や災害に強い基盤づくりを推進する。 ● 桜井市の貴重な資源である森林の積極的な活用と適正な維持管理により、木材産業の活性化とともに、環境に配慮した循環型社会の創出を推進する。
	まちなか居住促進区域	近鉄・JR桜井駅周辺、栗殿周辺 ● 高度で多様な都市サービスを多くの方が享受できるように、地域公共交通の利便性に合わせ、居住者の生活を支える様々な機能の立地を促進し、快適で賑わいあふれる居住環境の形成を進める。
	地域居住促進区域	近鉄大福駅・近鉄大和朝倉駅・近鉄長谷寺駅・JR三輪駅周辺 ● 桜井駅へのアクセス性を生かしつつ、公共交通をはじめ自転車・徒歩によるクルマに過度に頼らずに生活できる移動環境の充実を図り、快適な居住環境の形成を進める。
	一般居住区域	市街化区域の内、「まちなか居住促進区域」「地域居住促進区域」を除く区域 ● 居住地と農地等との調和を図りつつ、ゆとりある低層住宅地としての良好な住環境の維持・保全に努める。 ● 既存産業の維持・保全を図るとともに、交通の利便性を生かし、子育て世代等の働く場を創出する。
	郊外集落区域	市街化調整区域に分布する集落 ● 豊かな自然・歴史資産等の地域特性や、農業等の生産基盤を保全しつつ、居住環境の維持を図る。また、デマンド型乗合タクシーをはじめとする地域公共交通の維持・確保に向け、多様な関係者が連携した取組みを進める。
軸の展望	広域連携軸 ● 周辺市町村との広域連携を進めることで観光交流振興や産業振興を進めるとともに、都市機能の持続的提供を図る。	

b) 将来都市像

将来都市像は、桜井市全体の将来ビジョンを描くものであり、以下の視点を踏まえ、検討する。
また、検討にあたっては、右記に示すような類似計画の将来像や各種会議で出された将来像（案）、キーワードを参考に新しい総合計画の将来像についてご意見をいただきたい。



【参考】

▶ 類似計画の将来像・基本目標・基本理念 ほか

関連計画	将来像・基本目標・基本理念 ほか
桜井市都市計画マスタープラン	都市づくりの将来像：現行総合計画と同じ 「観光・産業創造都市 ～人と人とのつながりから、新たな歴史がはじまるまち～」
桜井市立地適正化計画	まちづくりの基本理念： 活力のある中心市街地と地域性あふれる拠点をつなぐ、集約・連結型都市 桜井
桜井市歴史文化基本構想	基本理念：大和（やまと）し美（うる）わし 日本の国のふるさと桜井

▶ 各種会議で出た将来像（案）

会議名	将来像（案）
高校生まちづくり会議	<ul style="list-style-type: none"> ● 多くの人々が豊かで健康的に住みやすいまち ● みんなが楽しくて治安が良いまち ● 地域のみんが活気あふれて、笑顔の絶えないまち
有識者会議	<ul style="list-style-type: none"> ● 神なびの里健康長寿都市 ● 地域資源を活かした循環型の地域経済の構築 ● 新技術（AI、IoT）の活用
第3回策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ● 暮らし・自然、観光が結びあうまち（つながるまち）桜井 ● 町でつながる、近隣市町村と結び合うまち桜井 ● 男女が共に支える、暮らしやすい桜井市 ● 安心して子育てができる桜井市 ● 多文化共生のまち桜井市 ● 笑顔があふれるにぎわいのまち
第2回作業部会	<ul style="list-style-type: none"> ● 郷土に誇りと愛着をもてる子育てができるまち ● 人を思いやり ともに助け合う心を育てる 桜井市 ● 誰もが笑顔あふれる 安心安全すみよいまち ● 人を育み共につながる 心豊かな 桜井市 ● つながる 人・まち・歴史（未来） ● 歴史文化に包まれた 心豊かに暮らせる万葉のふるさと ● 市民と行政がともに歩む 人にやさしいふれあいの文化都市

▶ 各種会議で出た将来像のキーワード

分類	主な意見
歴史性	歴史・文化、郷土愛、歴史文化都市、歴史と共に生きる、豊かな歴史資源、歴史・伝統・文化が息づく、受け継ぐ
桜井らしさ	地域色豊か、活気あふれる、大和 まほろば、愛着の持てるまち、人に優しい、みんなに優しい、大和（やまと）し美（うる）わし、神なびの里
連携	地域連携、つながる、つながりあえる、共存する、周辺自治体と連携した、助け合う、“自助”“共助”“公助”“互助”、住民主体
安全・安心	安全・安心、防災
健康	健康的な、居場所のある、誰もが手軽に健康づくりができる、健康長寿
居住環境	住みやすい、住みよい、子育てしやすい、暮らしやすい、多世代居住
自然・環境	四季が感じられる、キレイな、里山、自然環境保全、持続可能な地域社会の構築
産業・経済	循環型の地域経済の構築、都市の活性化のためのサプライチェーン、地域経済の活性化、循環
子育て・教育	子育て世代にやさしい、安心して子育てができる、地域で子育て・社会で子育て、学び
その他	楽しめる、心豊かなまち、コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり、新技術（AI、IoT）の活用

▶ 今後の検討方針

本日の検討も踏まえ、9月中に第3回検討会議及び作業部会で将来都市像（案）を絞り込み第4回策定委員会・総合計画審議会で将来都市像を決定していく。